

研 究 分 野	資源評価	部 名	資源管理部
研 究 課 題 名	東通原子力発電所温排水影響調査 海洋生物調査		
予 算 区 分	水産業企画調査費 (広報安全等対策交付金10/10)		
試験研究実施年度・研究期間	H.15 ~ H.27		
担 当	伊藤 欣吾		
協 力 ・ 分 担 関 係	水産振興課		

〈目的〉

東北電力東通原子力発電所の温排水が、施設前面海域及び周辺海域に与える影響を把握する。なお、本調査は東通原子力発電所温排水影響調査実施計画に基づく調査項目の海洋生物のうち主要魚種漁獲動向（イカナゴ）について実施した。

〈試験研究方法〉

(1) 漁獲動向調査、(2) 標本船調査、(3) 仔魚分布調査

〈結果の概要・要約〉

平成16年(1～6月集計)の白糠漁協と泊漁協のイカナゴ漁獲量は109トンで、昭和56年以降平均の48.1%であった(図1)。平成16年4月1日～6月30日における白糠漁協と泊漁協のイカナゴ光力利用敷網漁業標本船8隻により推定された発電所地先海域と全海域の半月別漁獲量の推移は図2のとおりであり、全期間を通じて全海域に占める発電所地先海域の漁獲割合は2.1%(平成15年は3.8%)であった。平成16年におけるボンゴネット水深0～50m往復傾斜曳によるイカナゴ仔魚分布密度は図3のとおりであり、平成16年の平均分布密度は7個体/100m³であった。

〈主要成果の具体的なデータ〉

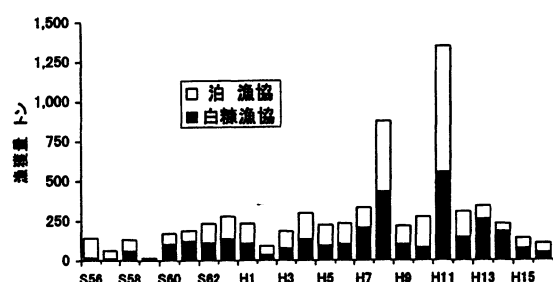


図1 イカナゴ漁獲量の推移

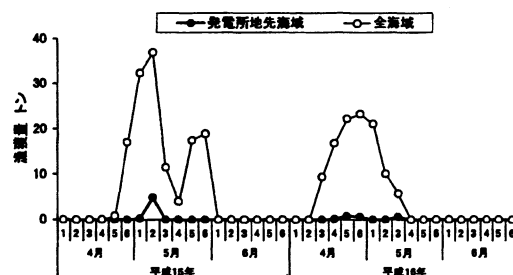


図2 平成15年における発電所地先海域と全海域の半月別推定漁獲量

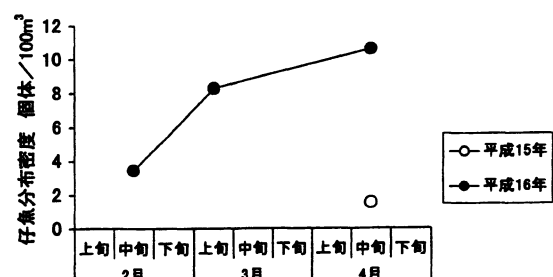


図3 イカナゴ仔魚の推定分布密度
(平成17年2月、3月分は取りまとめ中)

(今後の問題点) なし

〈次年度の具体的計画〉今年度と同じ

〈結果の発表・活用状況等〉

青森県(2004)東通原子力発電所温排水影響調査結果報告書平成16年度(第1四半期)。